

公開授業を終えて、「主体的・対話的で深い学び」の授業実践について考えたことや感じたことをまとめる。

●感想

1. 学習指導案作成について

- ・1単位時間での計画ではなく、単元全体の構成をつくるということで、取りかかる前は「以前より簡単だ」と考えていたが、実際に作成してみると単元を広く見通す必要があり、難しく感じた。
- ・全体を通して考えることで、1単位時間で完結させるような授業ではなく、単元全体の連続性をもって授業に取り組むことができ、生徒も見通しもって授業に臨むことができる。

2. 授業実施について

- ・単元を通した授業の構成が教員と生徒の間で理解できているため、授業の見通しや目的が分かりやすい。特に3年生向けの復習・受験演習の授業では、単元の内容や課題点も明確なため、生徒も意欲的に取り組める。

3. 今回の公開授業・研究協議会について

- ・特に「主体的」「対話的」な学びに重点を置いた授業を行った。基礎事項の習得を一通り終えた段階で、やや発展的な問題を生徒同士で話し合いながら解決し、書画カメラを用いてスクリーンに映しながら発表するという展開のものだ。
- ・話し合いおよび発表で、生徒の主体性を重視するために、できるだけ「教授」することを避け、励ましや着目点のアドバイスに徹するようにした。
- ・「1単位時間完結の授業ではなく、単元で連続性のある授業である」ということを授業者、生徒、そして参観者が強く意識できるように授業を構成した。

●今後の課題

1. 学習指導案作成について

- ・単元を通してどのような「資質・能力を身につけさせるか」という前提を考える必要がある。これは個人でできるものではなく、科目会、教科会の中で数学科の教員同士で話し合いながら作成しなければならない。
- ・単元の目標だけでは抽象的すぎて授業をどのように進めるかまで踏み込めない。
- ・知識習得の部分と、知識の活用や深化の部分に分け、授業をマネジメントすることが必要である。
- ・生徒を一律に評価することは難しい。絶対的な達成度の規準(ルーブリック評価など)を決める必要がある。ただし、生徒一人一人の変容にも注目すべきであるため、評価のあり方に対しての研修を重ねなければならない。

3. 今回の公開授業・研究協議会について

- ・研究協議会では、どうしても「1単位時間完結の完成度の高い授業作り」とらわれた発言が多かった。(時間配分の仕方、本時の目標、この時間で身についた内容はなにか、など)
- ・研究協議会にあたっては、単元の目標をどのように設定し、それを達成させ適切に評価するためには、授業や課題をどのように展開するかを話し合う場にする必要がある。